



生命の危機にある心臓病を抱えた 子どもを組合が一体となって迅速に支援

神奈川県遊技場協同組合 「心臓移植手術を要する 県内在住の2人の幼児への 支援活動」事業



神奈川県遊技場協同組合
理事長
伊坂重憲さん

選考理由

小さな命のための連帯が 顧客の心とマスコミを揺さぶった

「だいちちゃんに心臓移植を」「ひまりちゃんに心臓移植を」。米国での手術が必要な小さな2つの命を救うために、神遊協と地区組合、ホールが一体となって各ホールに募金箱を設置し、来店客に呼びかけるとともにホームページでも支援を呼びかけた。その広範囲な活動はマスコミにも紹介され、さらに支援の輪を広げる結果となった。地域に根差し、地域に「善意のムーブメント」を呼び起こした功績に対し、委員会全員一致で敬意を表した。ベビー二人は「術後のリハビリ中」という嬉しいニュースである。

社会貢献活動審査委員会
委員長代行
脇田 直枝氏



拡張型心筋症を患うだいちちゃんを 救う道は米国での心臓移植手術

「拡張型心筋症」は厚生労働省の特定疾患（難病）にも指定されている重篤な病気で、心筋細胞の性質が変わって、特に心室の壁が薄く伸び、心臓内部の空間が大きくなることで、血液をうまく送り出せなくなり、うっ血性心不全を起こすという。はっきりした原因はわからず、決定的な治療法も確立されていない。内科的治療で改善しない場合は、今のところ有効なのは心臓移植しかない。しかし、現実には提供される臓器には限りがあり、移植を望む人すべてを救うことができない。

神奈川県遊技場協同組合（以下、神遊協）の伊坂重憲理事長が迫原大輝ちゃん（以下、だいちちゃん）の存在を知ったのは、2016年1月30日に放送されたNHKニュースだった。そのニュースは、「だいちちゃんを救う会」が、神奈川県庁記者クラブで支援を呼びかける記者会見を開いたというものだった。

当時、1歳2カ月のだいちちゃんは、拡張型心筋症の闘病中。生後8ヵ月で発症し、補助人工心臓を装着していたが、それを続けると血栓症や脳梗塞、感染症のリスクがあり、1～2年が限界とされ、心臓移植以外に助かるケースはほぼないという状況だった。国内でも心臓移植は可能だが、ドナー不足などで、6歳未満の心臓移植は年間1例に満たない。そこで米国で移植手術を受ける



ホールに設置された募金箱と募金を呼びかけるポスター



神遊協の創立50周年記念祝賀会にて「だいちちゃんを救う会」に目録を贈呈



創立50周年記念の祝賀会会場でも参加者に募金を呼びかけた

ため、費用の募金協力を両親や支援者たちが結成した「だいちちゃんを救う会」が訴えるというのが記者会見の内容だった。募金の目標額は3億2000万円。渡航移植には治療費や入院費のほか、医療専用機をチャーターしなければならず、そうした費用を含めると莫大な金額となる。

ホールでの募金活動を決定して 県内564ホールでの募金を開始

伊坂理事長は2月4日、神遊協の総務委員会にだいちちゃんの支援活動の審議を要請した。そこで組合を挙げて支援すべきであるとの決議を得て、2月8日には理事会の承認を受け、傘下の地区組合長、組合員及びホールに対して「心臓移植を受ける幼児を応援する募金活動への取り組みについて（お願い）」を发出し、支援のための募金活動がスタートすることになった。

神遊協では、ただちに支援を呼びかけるポスターを作成して県下564ホールに掲示してもらおうとともに、各ホールに募金箱を設置し、遊技客に募金をお願いした。同時に神遊協のホームページでも募金を呼びかけることで、ホールでの募金活動をサポートした。募金箱は2月8日～8月31日まで設置され、その結果、23地区組合、ホール法人、ホールスタッフに加え、多くの遊技客からの募金があった。また、6月に開催された神遊協の創立50周年を祝う記念祝賀会に「だいちちゃんを救う会」の共同代表やだいちちゃんの両親を招き、理事長とともに支援協力を呼びかけたほか、来賓挨拶に立った黒岩祐治神奈川県知事からも募金を呼びかけた結果、当日、来賓や参加者からも多くの募金を集めることができた。

だいちちゃんは7月12日に渡米し、16日にコロンビア大学病院で心臓移植手術を受け、無事成功。米国でリハビリを行った後、今年1月に帰国し、現在は神奈川県の自宅において元気な日々を過ごし、2017年6月16日に開催された神遊協の第51回通常総会に、だいちちゃんと父親が出席して400名の参加者に元気な姿を見せた。

もう一人の拡張型心筋症患者の
ひまりちゃんを救うための活動も

だいちゃんが米国で手術を受けた約1ヵ月後、地区組合のひとつである厚木市遊技場組合から、県内のホール関係者の1歳7ヵ月になる長女、森川陽茉莉ちゃん（以下、ひまりちゃん）が、だいちゃんと同じ拡張型心筋症を患い、一刻も早く米国で心臓移植手術を受けなければ生命に危険が及ぶ恐れがあるという報告が神遊協に寄せられた。

神遊協では、ひまりちゃんの支援も行うことを決定。緊急を要するため、だいちゃんと同様の取り組みを行うこととし、まず組合役員・理事会で书面決議し、8月22日に理事、地区組合長、組合員及びホールに対して「心臓移植を受ける幼児『ひまりちゃん』を応援する募金活動への取り組みについて（お願い）」を発出し、募金活動を開始した。

ひまりちゃんの支援活動に関しても、神遊協で作成したポスターを県内各ホールに掲示するとともに、募金箱を設置したほか、神遊協のホームページでも募金を呼びかけるなどの活動を展開した結果、ホール関係者や遊技客から多くの募金が集まった。募金箱は8月27日～10月

25日まで設置された。9月9日には神遊協の総務委員会に「ひまりちゃんを救う会」の共同代表と父親が支援協力をお願いに訪れた。この「ひまりちゃんを救う会」は、父親が勤務していたホールの同僚や母親の友人らが中心となって結成されたものである。

ひまりちゃんは10月26日に渡米し、入院した。一時は脳内出血を起こして血栓を取り除く手術を受けたものの順調に回復し、11月14日、約10時間に及ぶ心臓移植手術は無事成功した。その後、治療を受けて今年3月16日に帰国し、現在は東大病院に入院して、リハビリ中とのこと。ひまりちゃんの父親が2017年6月16日に開催された神遊協の第51回通常総会祝賀会に訪れ、手術が成功して無事帰国したという報告と、支援に対する謝辞が述べられた。

社会的に弱い立場にある人を
支援するための活動を継続実施

拡張型心筋症という重い病気にかかり、助かるには米国で心臓移植を受けるしかないという瀬戸際に立たされていた2人の幼児、だいちゃん、ひまりちゃんを何とか

支援したいということで神遊協が始めた募金活動だが、地区組合、ホール関係者、さらには一般の遊技客の理解も得られ、総額で1,808万4,886円（内、神遊協：1,001万3,693円、23地区組合：396万円、ホール：411万1,193円）が集まり、2人の手術や治療に活かされた。2人とも無事、米国で手術が受けられ、元気をとり戻していることが、この事業の何よりの成果だと言えるだろう。

今回の心臓移植手術を受ける子どもの支援活動は、神遊協にとって初めての経験であったが、これまで神遊協が長年にわたって行ってきた社会的に弱い立場に置かれている人々を支援するという活動に沿ったものであるため、地区組合や組合員ホールにも理解が得られ、スムーズな展開ができたと神遊協事務局では振り返る。

神遊協では社会的弱者を支援する活動として、これまで福祉車両贈呈やふれあいコンサートなどを行ってきた。福祉車両贈呈事業は県内の福祉施設などに福祉車両を贈呈する事業で、1985年以来、約30年間でのべ242台の福祉車両を寄贈している。特に、2008年からは公募方式に切り替え、広く県民に事業を周知することで、真に支援を必要としている人に届くように配

慮している。

また、2012年から毎年行われているふれあいコンサートは、県内の特別支援学校などの子どもたちをプロの音楽家によるフルオーケストラコンサートに招待する事業で、子どもたちは貸し切りの大ホールで声を出し、手足を鳴らして全身で音楽を感じ、オーケストラと一体化する。ホール関係者も現場で子どもたちと触れ合うことで、逆に元気をもらっている。この事業は行政からも継続開催を強く望まれ、県内の多くの特別支援学校では学校の年間行事のひとつとして組み込むなど、教育の一環として欠かせないものとなっている。

今回の心臓移植手術を受ける子どもに対する支援活動が成功したのは、日頃からこうした活動を地道に継続することで、地域に信頼されていることが背景にあるのは間違いない。「組合創立50周年という節目の年に行った事業が大きな評価を受け、社会貢献大賞を受賞したことを誇りに感じている。今後も地域社会からの要望に応える社会貢献活動を行い、それが評価されることで業界のイメージアップに繋がるよう努力していく決意だ」と、神遊協は語っている。



ホールに設置された募金箱



総会祝賀会でそれぞれの父親がお礼を述べられた。右からひまりちゃんの父親、だいちゃん、だいちゃんの父親



祝賀会会場では、だいちゃんの元気な声が響き渡った